

「日本市場を通してみるホピ・ジュエリーの現代的諸相——グローバル化するアメリカ先住民美術工芸品市場における知的財産保護という開発に向けて」

伊藤敦規

(東京都立大学)

本発表では美術工芸品制作・販売に依拠するアメリカ先住民ホピの保留地経済状況と日本国内のホピ・ジュエリー市場の動向を紹介し、ホピ作家・店舗関係者・発表者の三者が企画し現在実験的に行っている知的財産保護を目的とした対日市場プロモーションに関する報告を行う。

1990年代以降、日本国内にはホピ・ジュエリーを扱う店舗が多数創業し、以来買付目的で保留地を訪れる日本人バイヤーが増加してきた。そして、彼らの買付作品数や購入費用はホピ保留地経済に少なからぬ影響を与えている。ジュエリーの制作・販売に従事するホピの多くは経済的恩恵を生み出す日本市場に対して肯定的なものの、同時にある種の不安も抱えている。それは彼らの知的財産が彼らの知り得ない国外市場にてどの様に扱われているのか、という不安である。この場合の知的財産とは、作品のデザインや制作技術ばかりでなく、保留地訪問時に知り得たホピに関する情報も含まれているのである。